（五日夕刊）
磐城新聞
休刊（第一第三日曜）
定價（壹枚二錢、壹ケ月五十錢、郵税十錢）
廣告料（雜報欄行五十錢 場所指定二十錢增）
發行兼編輯印刷人　遊沼龍輔
發行所　福島縣平町田町拾六　磐城新聞社　電話五六四番

勞農黨の赤化戰術

◆…日本國体の毀損へ

日本共産黨たる勞農黨の青年方面に對する宣傳に當りつゝあるは、無産青年同盟である。無産青年同盟は青年間に赤化共産主義を宣傳する戰術の方針書を中央執行委員長麻生久の名に於て、全國の主義者青年幹部に配布してゐるその方針書は、頗る微に入り細に亘り用意周到を極めた謄寫版刷り二百ページ程のものである。而して勞農黨一派は、この方針に從つて大除地方の赤化宣傳を行ひつゝあるが、その間に於いて最も彼等の主力を注ぎつゝあるは「考へ方」の革命的變化、觀念の革命であり、その第一手段として「用語」の宣傳普及を行ふのである。

◇

赤化宣傳派が先づ地方青年に赤化教育を施すに當つて、第一に吹き込む所のものは「科學的方法態度」を採れといふことである。けれどもこの科學的といふことは純正なる意義に於ての夫れではなく、マルクス主義的の別名に外ならないのである。彼等は科學的立場をとると稱して所謂社會科學運動なるものを起して居るけれ共この社會科學なるものは純正なる意義に於て、社會科學ではなく、マルクス主義的なる唯物史觀に立つ唯物辨證法的方法による著るしく偏頗なる意味の社會科學なのである。否寧ろマルクス主義宣傳を指して言つて居るにすぎないのである。

◇

けれども彼等が地方青年に向つて「科學的な」といふについて根本ヶ目指す所は、日本歴史を疑はしめ、日本の國體觀念を疑はしめ國民精神を破壞し、國體の尊嚴を打破せんとするにあるのだ、か[illegible]地方青年は國民たる意識を捨てるに至り、一方に於てマルクス主義研究の勸說さるゝ所からマルクス主義的の考へ方となり勞農ロシアを崇拜し、第三インターナショナルの命令を遵奉するに熱心となるに至るのである。

◇

地方青年に「科學的」態度を植付けると同時に、彼等は、一方に於て「社會的」態度なるものを植付ける。此社會的態度は國家的態度に對立するもので、國家を階級的分立對立のものと見させ「階級的」即「社會的」といふやうに教へ込むのである。階級觀といふものは、未だ認識論上眞に確立されたものではない。嚴密な考へ方でゝ或は「階級」の存在否定されるやも測られず、また階級よりも國家の方が重要であるといふ考へ方によるやも測られない。こうした考へ方の混亂を起させない爲に、彼等は「階級」「階級」といふ言葉を盛んに用ひ言葉を植付け、更にこの言葉を盛んに用ひさすべく仕向けるのである。

◇

用語の革命戰術は、唯だ「社會的」「階級」だけに限られない。「民衆」「大衆」「帝國主義」「資本主義」「暴壓」「搾取」「被搾取」「被壓迫」「反革命」「反社會的」「反動的」などゝいふ言葉を植付けて一切をマルクス主義的共産主義的の考へ方の方向に引き付けて行かうとするのである。彼等の地方青年に對する宣傳の主力は之等の言葉を植付けることに集中されて居るのだ。

◇

この言葉の革命を成功せしむるに最大援助を與へつゝあるものは流行[illegible]雜誌である。これ等の外廓[illegible]を利用して、彼等は巧に[illegible]得るのである。是に於て我等は之に對して如何なる戰術に出つべきかそれは、先づ常識にかへることである。階級よりも國家が重く、階級よりも國家が重く階級的利益より國家的國民的利益の方が重要であるといふことは、この常識にかへることによつて知り得られるのである。更に强く國內より國外に轉せしめることである然らば各國の勞働者が相互に鬪爭しつゝあることが解り、階級的一元說が成立しないことに想到し得るであらう（例へば白人諸國の有色人移民排斥の事實に見よ）世界地圖を見れば白人が世界の九分の八の陸土を支配し、ロシアが世界の五分の一の大領土を持つて居る事實も解かる。國內的生存權の主張よりも國際的生存權の主張の方が日本人否有色人に取つて第一必要事であることも解かるのだ然る後日本國家の歷史及び古典を研究することだ。日本文化を研究することだ。然る時、吾人は斷じて日本を捨てロシアに走らぬ如き賣國的態度を採ることは出來得なくなるのだ。日本主義鬪士諸兄よ先づこの戰術に立たれよ。

※……※
明日の吉凶
※……※

舊暦二月十五日
新暦三月六日

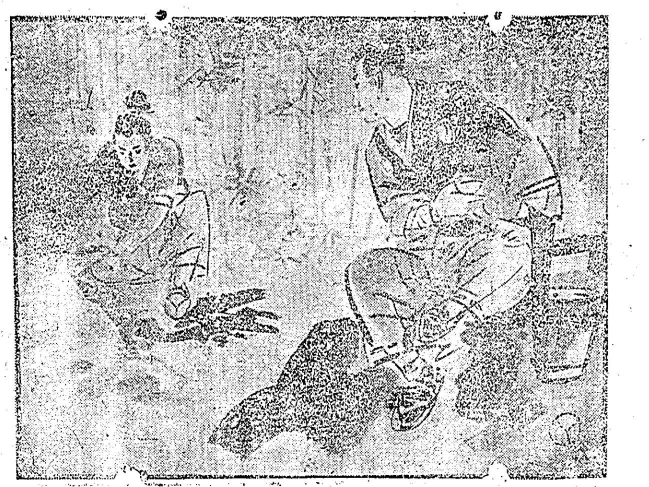
▲一白　案せす進むが宜し▲二黒　急げば廻れ何事も直前すれば目先くらむ▲三碧　願望次第に成就すべし。暫くの辛抱さへあれば後は[illegible]な吉あるべし▲四綠　脇目も振らず働きて不足は言ふまじきこと▲五黃　悅びは束の間暗雲後より襲ひ來るべし注意▲六白　得るところ少くとも亂りに進出すべからず▲七赤　進んで得なく退いても亦損すること多し▲八白　既往の放言が今日に崇りて苦しみ惱みある日▲九紫　運氣賢實となり將來もます〳〵發展し行く

講談

闇に閃く男達

(31)

高田涙川作
尾崎雪齊畫



酒飯の先生

「サア重太郎、もう怪猫は大丈夫退治る事ができる、先づこゝで一杯始めやうではないか」

中原幾太は一人がてんしてゐる、だが重太郎は氣が氣でない何を云ふ神通力を得てゐる畜生なれば、こうして話すを聞き逃げんともいはない、もしそういふ事でもあれば、善兵衛善助に面目ないと心配をする、それを知つてか知らずか中原幾太は本堂の片脇にグビリ〳〵飲み初め既に樽を半分も開けた

「先生もうボツ〳〵どうでございます、大分時間もたちましてございます」

「イヤ心配いたすな、その方がそれ丈あせつても拙者じなくては怪猫の巣屈は知るまい默つてゐろ、默つてゐろ」

又もグビリ〳〵やるその中に正午時分となつた、

「サア重太郎もう正午となつた、辨當を食つてポツ〳〵用意いたせ」

「先生も召し上りますか」

「イヤ拙者は酒を飲んだから辨當は用事ない、サアその方早くすましてしまへ」

重太郎は辨當をウンと詰めこむ

「サア先生、すみました」

「ヨーシそれちや拙者について參れ」

重太郎は幾太郎は幾太のあとについて行く、いくら酒すきでも三升前後の酒がはいつてゐるから堪らない、あつちいよつたり、こつちへよつたり、足もとが大分怪しい、重太郎は幾太が大言壯語するのみで甚だ信賴し難を思ひ、こんな武士をたのみとせず己れ一人で退治してやる心組で度胸をすゑ、ついて行くと庫裡から裏へ出て籔の中へきた

「サア重太郎、こゝにこんな穴があいてゐるだらう、こゝがどうも怪しい、しかし今こゝから飛び出す事はあるまへ、それといつて決して油斷はできぬ、もし飛出せば一刀のもとに切つてしまへ、拙者は少し考へた事あればあちらへいつてくる」

重太郎一人をこの籔へ殘し幾太は籔を向ふに拔けて姿を消した、籔とはいへ無住の庵寺の裏しかも籔の中の事であるからその淋しさは非常なものだ、重太郎は四方に氣を配り警戒を怠らぬその中約一刻近くすると幾太はブラリと歸つてきた

「サア、重太郎もう大丈夫だいよ〳〵これからだ、若し不意に飛出し逃られては大變だから十分にその用意せねばならぬ、そこで重太郎只こうして待つた處で相手もごうをへたやつだから吾々の事を知り容易に出てこまへ、それゆゑ拙者が持參せしこの煙硝でいぶしてやらう、そこら落葉を集めてくるがよい」

重太郎はいはるゝまゝに落葉を集めてくる、幾太はその中に煙硝を入れ點火して穴の中へその煙を入れるもし怪猫がこの穴にゐるなら、こういぶされて出て來ぬはずはないのである、がナカ〳〵出て來なかつた

「先生一向出てくる樣子がございませんなア」

「イヤ、これは前はまだ知らぬが先刻拙者が向ふの方へ參りしは此の穴が決して一方でないすべて畜類はいかなるものでも地中に穴を掘り棲息する時には必ず一方拔け穴より逃げ去るからその拔け穴を探しに參つたのである」

「ヘエーー、その拔け穴は見つかりましたか」

「あつたよ、この籔疊を向ふへ越すと野中に一つの古井戸がある、その脇にある穴が拔け穴に違ひないからそれを三四十貫もある石で蓋をして參つた、大丈夫逃げる事は出來ない、今に出てくるそれともまだ十分に煙が廻らないのか、但しは容易ならぬ怪猫ゆゑ逃げだす機會を窺ひをるのかも知れぬ、いづれにせよ今一刻もいぶしをればきつと樣子が知れやう、ドシ〳〵いぶして見よ」

重太郎に命じた幾太は本堂から樽を引寄せて又もやチビリ〳〵飲み始めるのである。

ナフトール着尺
モスリン着尺
模樣名仙
平
龜田屋
電五七

平町田町
高久病院
電話五一三番

營業種目
內地材
材木各種、羽柄材各種
建築諸材請負
礦山用坑木其他諸材請負
外材部
米松、米杉、大角製材調達
請負　其他
佐藤材木店
常磐線平町新川町
電話三三五番

營業品目
絹糸、絹紡績
綿糸、染糸、組紐
漁網糸、人造絹糸
カタン糸、輸出用加工糸
眞綿、其他糸物一式
東京市日本橋區通油町
株式會社 藤掛商店
電話浪花三五一番
振替東京三二四〇番
糸界の羅針盤糸紐通報
御一報次第直送
小店員募集
十五才以上十七八才迄　五名
小學校卒業程度御希望の方
磐城新聞社御出で下さい。委細面談

夜間診療
胃腸
內科
十二指腸虫病
專門
內科部
梅毒
淋病
婦人病
皮膚病
專門
外科部
平南町 松村病院 電話一〇七

平町紺屋町
吉田眼科醫院

TRADE MARK
NIPPONOPHONE
時計の進歩！遂に
振動不感の
腕用時計
を生めり
打付けてもたゝき付けても硝子も毀れず狂はない
側はクローム側にて小形です
平町四丁目
會田時計店
電話三六三

昭和三年度春の粧ひ
新柄が豐富に取揃ひました
是非御覧下さい。
新館陳列
模樣銘仙
京御召
小紋錦紗
帶側
平町
三井呉服店
電話三八番
七五一番

女中さん入用

宮內省御用達
ヒゲタ醤油
釀造元　銚子醤油株式會社
平町田町
特約店 廣瀬支店
電話五四番

青山麻中風靈藥
定價一週分九〇　二週分一、七〇　三週分二、五〇
動脈硬化症、腦溢血、半身不隨、言語難澁、其の他中風より起れる諸症に偉効を奏す
……是非御試用を勸む……
代理店
平町五丁目角
山野邊藥局

人力車業者を脅威する
野崎滿藏君の暴擧に非難
縣會議員たる自己を知らぬ
驛構內營業問題紛叫

平町地方は最近非常なる自動車業の發展と共に直接營業上の打擊を受けてゐるものは人力車營業者である。之れは勿論一般的に蒙る不景氣からの影響もあるであろうが、昨年春頃まで平驛構內に百五六十臺、平町のみにて百餘臺を數へた人力車が

ジリ減りに減少し現在は僅か五十臺を越さぬ有樣である、而して從前一臺一ヶ月百廿圓位の稼高であつたものが然も車數が減つた今日一臺一ヶ月の稼高四五十圓を越えず隨つて車主も挽子も同樣に蒙る生活上の窮況甚だしく嚮きに同業聯合組合より營業税半減の請願を提出し昨年末の通常縣會は日程の關係上同案審議の機を得なかつたが參事會に

代決を委任し去る一月の常例參事會に於て自動車税半減を議決したのである、事實は然かも斯くの如き人力車營業者の窮況に同情する縣民の輿論が茲に現はれたものであるが平町の人力車營業者が直接に禍されるものは平驛構內に自動車が浸入し從來殆むど人力車に據る外乘用機關の無かつた客を悉く奪ひ去られる爲めにして

人力車營業者は深く之れを憂ひてゐた折柄最近に至り自動車業者にして鐵道當局に對し平驛構內運轉營業方を願ひ出た者がある即ち平町より高久、豐間、山名町に至る片濱自動車營業者は野崎滿藏、鈴木辰三郎兩氏であるが右關係各町村有志等は鈴木氏に對し平驛構內運轉方を希望し來たるも鈴木氏は人力車營業者の痛手を憂慮しその

方法を構ぜざるが同一路線の自動車營業者たる野崎滿藏氏は平驛長を通し右構內營業の許可方を願ひ出たので平町の人力車營業者等は一大恐威を感じ昨四日總會を開き善後策を構じた上其の筋に對し救濟的の陳情をなす等事態極めて復雜化し人力車業者・生活に關する問題となつたが此の暴擧を採つた野崎滿藏氏に對し社會は可成り痛烈な批難と論評とを加へてゐるもの如くである

即ち野崎氏は縣會議員として縣民相互の利益を計る事に努む可き重大な公的任務を有し前述の如く縣會は自動車營業者救濟の目的で營業税半減を議決した趨勢に鑑み苟しくも縣會議員たる野崎氏自身が人力車業者の營業を恐威する如き暴擧に出でた事は如何に營業上とは云ひ餘りに利己主義の譏りは免れざる可きである、人力車營業者は

自動車路線の如き利權もなく少くも一家の興亡日常生活の安危に係る眞摯なる營業者に對し斯くの如き恐威を與へつゝある譏に對し世論は兎角批難の聲を向けてゐる模樣である

石城一帶を襲ふた
連日の大暴風
進行中の空貨車
脫線顚覆の椿事

石城郡地方は近來にない連日連夜の強風で小名濱測候所の觀測に依る警報があつたので何れも警戒をなしたので大した被害はなかつたが板塀並に煙突の倒潰しか[illegible]等は各所におい[illegible]署では

署員を派し是れが被害の調査をなしてゐるが停電數回に及び電信電話の不通など非常な猖狽を極めたが四日零時二十分ころ常磐線富岡驛發貨物八十九號列車が貨車三十一輛を連結し原の町に向つて

進行中夜の森、大野驛間の熊川に差かゝつた際俄然烈風のため機關車から五輛目のチエンが切斷され貨車十三輛は河中に轉落損害莫大の模樣でこれにより下り急行並ぶに準急行列車は何れも平驛に停車するの已なきに至り非常な雜踏を演じた

磐中の
卒業生
明後日擧式

磐城中學校第廿八回卒業式は明後七日午前十時より執行する事と既報の如くであるが今期卒業生左の如し

（以下イロハ順）猪狩四郎
猪狩庄一郎　伊藤東一
石川二郎　石堂輝雄　市
井茂　石坂恒雄　箱崎永
吉　箱崎善教　箱崎新平
箱崎登　林孜　花園徹
塙操　花澤武夫　西山榮
西山熙　西山直治　星貞
吉　星正一　蓬萊信男
富岡磐　大平重夫　大森
輝　大角憲顯　岡田修一
岡田隆廣　岡崎英一　小
高舒　荻野定夫　小澤
信　渡邊彌平　渡邊武雄
渡邊豐　加藤誠藏　片寄
正義　風間泰介　門井直
澄　川副正雄　柏原信一
吉田武　吉田豐　吉田四
郎　四倉久朗　高岡文夫
高野正男　高萩七郎　田
中貞　橘五郎　高田彌四
瀧上一男　園部雅美　根
本弘　中野喜一　中田堅
仲田正　永野孝夫　永山
忠泰　永久保貞　村山林
一　村田竹代　村上喜八
郎　宇佐神正康　江尻武
江尻保　草野良一　草野
光司　鯨岡珉城　鯨岡英
俊　櫛田幸三郎　黑木房
平　黑澤章　國安靜行
栗山樹　山野邊忠雄
安永安政　矢部定一　山
遲修三　松本達美　松本
孝一　馬目釀　松浦誠
益子堅　馬上武義　松井
不二男　松長格　藤井正
信　深谷丈助　小林清梅
小林智清　小室酉松　兒
玉光誠　後藤晃雄　吉田
部一男　小齋一郎　荒川
磯　荒川來四郎　芦澤直
輝　淺井義治　兩貝正直
麻原作衛　會田源一　齋
藤顯母　齋藤正一　佐藤
董一郎　佐藤剛　鷲和夫
佐竹貞得　三本杉保　澤
赳　佐波古直英　坂田千
平　笹井精二　酒井忍
三戶隆之助　木田清　木
田正夫　木田武男　木田
芳重　木村榮　清兒西男
木澤一郎　木村榮　桐生
道雄　志賀重慶　志賀軍
郎　柴田兵郎　島忠巾
柴崎茂八　蛭出四郎　蛭
田睦平　蛭田正義　平澤
二郎　平澤勝男　弘中一
雄　門馬忠男　關口純一
清洋一郎　鈴木邦與　鈴
田新右衛門　鈴木直　鈴
木嚴　鈴木竹次郎　鈴木
榮郎一　鈴木清隆　鈴木
榮治　鈴木充雄　鈴木芳
敎　鈴木隆枝　鈴木壽丸
鈴木武雄　鈴木信道　助
川一夫　菅波勝三　菅原
勉　（以上一五六名）

一、學業操行優良生徒一名鈴木信道
一、在學五ヶ年間正副組長勤續中野喜一
一、在學五ヶ年間精勤生徒（十六名）
松本孝一　西山榮　仲田正　蛭田政義　石坂恒雄　淺井義治　鈴木清隆　加藤誠藏　市井茂　川副正夫　吉田武　高萩七郎　菅波勝三　小林清海　鈴木充雄　柏原信一
一、本學年無精勤生徒七名
草野良一　桐生道雄　江尻武　渡邊武雄　渡邊彌平　平澤勝男　矢部定一

日立と磐炭の
圍碁雪辱戰
結果注目さる

常磐地方圍碁界の常勝磐炭軍の爲め先回惜しくも敗北した日立軍では爾來雪辱を期し鋭意猛練習中であつたが此の程磐炭軍に對し雪辱の圍碁試合を申込んで來たので來る十一日磐炭軍は多賀に遠征し日立製作所諏訪台倶樂部に於て第三回戰を開くこととなり興味の中心となつてゐるが日立軍は主將森島貞一氏外八名磐炭軍は主將濱崎善三郎氏の卒ゆる八名で結果の注目を惹いてゐる

三十錢の一種に
汽車辨の改製
殘飯の多きに鑑み
平驛で準備中

驛辨と云ふものは何處へ行つても同じやうなものであるかもわからないが、殘飯が非常に多く

實に不經濟な事であるとあつて鐵道省に於ては各鐵道は旅客掛より之が意見を提出せしめ目下種々と考究中にあるが仙鐵局は雞其土地の名物を多く入れて眞に特色あるものとする外婦人子供用として少量の辨當を造つて此の殘飯を防がんとしたが、なほ現在ある上辨三十五錢、並辨二十錢と二種を廢して三十錢辨當一種類にするの方針を樹て之を實行すべく目下準備中にある、右に就て平驛では語る「驛辨當は上辨（三十五錢）と並辨（二十錢）と二種類あるのだが二十錢辨當（壽司でなく）などは

一般旅客は殆ど見た事もない事であらう、それは營業主に販賣する意で造るのだが立賣人は歩合制廣しあるために此の二十錢辨當を賣る事を喜ばす旅客が辨當と言へば、すぐ三十五錢辨當を出すると云ふ有樣にが斯うした事を除く爲めにも又一般物價から云つても辨當は二十錢が至當であるか[illegible]二種類[illegible]て三十錢種類にしたいと思つてゐる次第である」云々

貧苦を苦にし
朝鮮女自殺
殺鼠劑を呑み

石城郡岩崎村大字藤原三井磐鑛百一號長家居住金町林（三〇）妻金相蓮（二六）は二日午後四時頃夫の不在中自宅內[illegible]イラズをのんで[illegible]附近の者が發見直に炭鑛病院の醫者を招ぎ救急手當を施したが生命危篤であると急報に依り平署から橋谷田部長出張をなした結果同女は打續く不景氣に朝鮮の郷里にゐる兩親の下に送金も出來ず思ひ餘つて覺悟の自殺を遂げたもので朝鮮女の麗しい死に方に同情してゐる

今度は全力を擧げ
博徒を征伐
既に檢擧を開始した
猪狩平署長の談

平警察署では三旬に亙る政戰取締に忙殺されてゐたが政民兩派共大した違反事件もないものと觀てか今日あたりは全くのんびりした春氣分が溢れてゐる、久方振りでかい上の署長室にくつろいでゐる猪狩署長は「縣下の各方面では選擧後の

違反檢擧で大分騷いでゐる樣だが當地方には幸ひに違反らしい違反もなくどうやら此れで重荷が降りた樣です當局が選擧の取締に多忙なのを付け込んで不正な桝目の誤魔化しや惡行商人の橫行等が頻發した樣で殊に時節柄だけに花合せ其の他の賭博が流行した[illegible]は著しく當局では今後此の方面に全力を注いで花合等の惡習慣を

一掃する考へで既に二三日前から目ぼしい方面には別働を派して探査してゐるが愈々近く徹底的な賭博狩りを開始するから一般でも相當留意して萬一此等の現行犯でも發見したら當局に通知して欲しい云々」と語つてゐた

白甫氏の迷惑

最近本縣平地方を荒木十畝の門下帝展係森白畝と稱し繪畵を揮毫販賣しだものあり森白甫氏は非常の迷惑を蒙つてゐると

愈々疑はしき
五人殺し事件
一審で死刑の判決が
無罪になり相

疑惑の殺人事件として福島縣人を戰りつせしめた石城郡四倉郷村鈴木治八郎（五〇）にかゝはる一家五人の皆殺事件は昨年來宮城控訴院で西田裁判長係の下に審理を進めてゐたが取調べの進むにつれ[illegible]實と證據と一致せず平支部において宣告された死刑が無罪となるかも知れないと、しかして同人の黑白を明にする公判はいよ〳〵今五日午前九時宮城控訴院刑事部法廷で開かれる（仙臺電話）

車座の一團
平署に檢擧

平署の猪狩刑事が今五日午前四時頃平町新田町を密行中料理店△△△△亭の茶の間で同亭主人某（五二）と同人妻某（四〇）料理人某（三九）外數名が車座となつて花合賭博中を探知現場に踏み込み現行犯として本署に引致目下嚴重取調中であるが其の他にも共犯多數ある見込で目下八方探査の歩を進めてゐる

白銀町區長
草野氏に決る
此程の町會で

平町白銀町區長問題は區民大會に於て草野清治氏を大多數で擧げた[illegible]會に於て種々異論起り遂ひに彼の大騷ぎを演じたが此の程伏見兩區長より町會に推薦し萬場一致で承認草野氏宛正式通牒を發したと

補助金を交附して
產馬の改善發達
逐年進步の域にある
本郡の產馬事業

石城郡に於る產馬畜產事業は逐年發展の域にあり將來益々斯業の目覺ましき改善發達を囑望されてゐるが其の筋では馬の能力增進並に馬事思想普及の爲め左の如き補助金を交附する事となつた

一、輓馬及農會の能力共進會に對しては所要經費の二分一以內補助す
二、馬耕競犂會及び之に準するものに對しては經費の四分の一以內出場馬數十頭以上にして牛馬總數の二分の一未滿なるときは競犂會に於て入賞した る馬に對し副賞として金五十圓を支出す
三、產馬講話會映畵その他馬の愛護衛生思想普及宣傳に對する助成
四、乘馬團体に對しては
（イ）乘馬團体の馬場厩舍等の新築改築增築及修繕をなす場合は所要經費の三分の一以內又團体有馬購入の場合は一頭二百圓以內補助す
（ロ）團体の主催する乘馬競會遠乘會等にして一府縣を參加區域とする場合は之に要する經費の三分の一以內の補助をする

△△△△雨天無用の指輪を
純金だと欺く
甘い口實を設けて
平署に檢擧さる

平町目拔の場所三町目平銀行前の大通りに數日前から姿を現した一見職工体の靑年が「俺れは元東京の或貴金屬商店の職工に雇はれてゐたのだが不景氣續きで主人の家が破產して仕舞ひ主人等一家は其の日にも困る程に落魄したので其の窮狀を救つてやりたいから、此れは當時賣殘つてゐた品だ可哀想な一家の爲めに買つて吳れ」と懷中から純金製と稱する指輪を出し巧みに通行人を欺らかし二、三圓から七、八圓、十圓位いまでに賣り付けてゐたのを平署に發見され昨四日午後三時頃本署に引致の上嚴重な取調を受けたが此奴橫濱市生れ當時東京市淺草區千束町居住山田三郎（三二）と言ふ男で指輪の原價は一個三十八錢「鬪子の好い日なら三十圓位いにはなりますよ、水の中に入れると色が變りますから雨の日には[illegible]ません」とあ

劇と映畫

壽美十郎來たる
七日から平劇場に

來る七日より平劇場に於て東京歌舞伎市川壽美十郎市川海老藏合同大一座、市內各新聞發賣所連合して愛讀者慰安興行を開演する事に決定し愛讀者優待券の配附は部數が多い爲め新聞に折込み配附すると云ふが殊に壽美十郎の石川五右門は故團十郎と眼玉の型を其まゝ演じ海老藏が顯光御殿で七役早替りちよこのちよこ平は見物であろうとの事で大好評を豫想されてゐる

紅燈街

●植田町●植田町本町嵐常作方飼養の犬は奇妙な事に藝妓を見ると飛付き嚙廻り既に君代、小奴外數名の藝者被害があるので二三日前に止むなく撲殺したが不思議な犬もあつたものであると大評判

東京大歌舞伎
市川壽美十郎
市川海老藏　大一座
●初日狂言
一、江戶の花角力の達引全通し
二、大江山四天童兒賴光御殿　ちよこのちよこ平上使より七段早替り
三、山門五三の桐石川五右エ門
四、繪本太功記尼ケ崎の場
當る七日　午後四時開演　花煙合圖致升
平劇場

廣告

近來福島縣下及茨城縣下ニ於テ荒木十畝門下帝展係森白畝ト稱シ若クハ森勇ト稱スル者小生名義ヲ欺稱シテ繪畵ヲ揮毫シ又ハ販布シオルモ右者全然荒木十畝先生門下ニ非ズ小生トモ何等關係ナキ者ニ付此段廣告候也

昭和三年三月五日
東京市神田區佐久間町四ノ七
森白甫

突如公開！
當ル六、七、八、三日間限り
滿蒙大ロケーション
五月信子主演大努力篇
大馬賊劇　大陸を流るゝ女　前後上映
戀人を慕つて遠く滿洲へ訪ねた美妓たゑんは幾日か原野を漂ふた艱難…辛苦…馬賊の襲來…怪人の出沒…破亂曲折…戀人は何處に美妓の運命？
短期特別大興行
神文美少年錄
余興　百萬兩秘聞
帝キネ マキノ
金井金之助主演
笑殺　十卷
有聲座　電話四四六
料金特に普通

銘酒瓶詰賣出し開始

一升瓶詰	一圓二十錢
四合瓶詰	四十五錢
二合瓶詰	二十三錢

自信ある優等酒を卸値より安く、廉く賣るために新に瓶詰小賣部を設けました
平町　永山酒造店

釀造元
清世界
吉　清水屋
石城小名濱町
小野晋平
銘酒
各炭鑛御用達
電話六番